

平成 30 年度 第 1 回羽咋市総合教育会議 会議録（要約）

1 日 時 平成 30 年 10 月 1 日（月） 14 時 00 分～14 時 50 分

2 場 所 羽咋市役所 302 会議室

3 出席者 羽咋市長 山辺 芳宣
教育長 八島 和彦
教育長職務代理者 木谷千恵子
教育委員 井上 克彦
教育委員 今井 和秀
教育委員 安達 吏和

（事務局関係）

総務部長兼総務課長 中田 裕之
総務部次長兼企画財政課長 川口 哲治
総務課主幹兼行政係長 蓮本 義哲
教育次長兼学校教育課長 西井 健一
学校教育課学務担当課長 濱名 和久
学校教育課課長補佐 前田 剛克

4 協議事項

（1）学校教育の指導指針の一部改正について

（2）羽咋市の教育の現状と課題について

（3）教育関連事業

①教員の多忙化改善について

部活動指導員や学校事務員の増員

②英語教育等の強化について

I C Tを活用した英語教育等、A L Tの増員

③高い学力を維持するための教育環境整備促進

学校施設等の充実（エアコン整備、トイレ洋式化等）

④学校サポート体制について

学校支援員や図書館事務員の増員

（4）その他

5 会議経過の概要

次のとおり

○市長あいさつ

○協議事項

(1) 学校教育の指導指針の一部改正について

教育長から学校教育の指導指針の一部改正された箇所について説明。

(2) 羽咋市の教育の現状と課題について

教育長から羽咋市の教育の現状と課題について説明。

(3) 教育関連事業

①教員の多忙化改善について、木谷職務代理から説明。

②英語教育等の強化について、井上委員から説明。

③高い学力を維持するための教育環境整備促進について、
今井委員から説明。

④学校サポート体制について、安達委員から説明。

(4) その他

主な意見等は下記記載のとおり。

【出席者からの質疑・意見等】

<協議事項(1)について>

(八島教育長) 平成30年4月に指導指針の内容の修正及び追加を行った。これからの時代を生き抜く羽咋市の子供たちに必要とされる資質能力を身につけさせることを重点に改訂を行った。

(主体的・対話的で深い学びを推進、英語、プログラミング教育の推進など)

<協議事項(2)について>

(八島教育長) 高い学力水準の維持について、県の学力調査では対象の小学4、6年で優秀な成績となっており、中学3年の英語についても今後成果が見込まれる。また全国学力調査でも県内でトップレベルにあり、石川県が全国でも上位であることから、羽咋市の学力は全国的に見てもトップクラスであると思われる。

つぎに、教職員の時間外勤務時間状況について、平成29年度では県平均を上回っていたが、平成30年度では改善がみられる。定時退校やノー残業デイ、タイムレコーダーの導入などに

より効果が表れてきていると考えられる。今後も校務支援システムの導入などを検討していく。

(山辺市長) 勤務時間外については、タイムレコーダーの活用などにより、正確な労働時間と残業の原因を洗い出し、分析していくことが大切である。

<協議事項(3)について>

(木谷教育長職務代理) 教員の多忙化改善については、タイムレコーダーなどにより現状把握が必要であるが、中学校では部活動に関して時間外勤務が多く取られている状態であり、部活動指導員により教員の負担が軽減される。また小学校においても、子供と接する時間を維持するため、事務を支援することで労働環境を改善できるので、部活動指導員や学校事務員の増員をお願いしたい。

(井上教育委員) 再来年学習指導要領が改訂され、英語とプログラミング教育が小学校に導入される。現在小学校のほとんどの教員は教員免許取得時に英語教育を想定しておらず、英語に関する指導が難しいため、ALTなどの補助が指導の際に有効である。ALTは、来年度増員を計画されているので、そのように進めてほしい。プログラミング教育については、現在模索中であるが、各教科のなかにプログラミングを取り入れられるように、どのような形で取り組んでいくのか検証を行っていただきたい。

(今井教育委員) 学校教育活動については、ハード面とソフト面の両方とも重要な要素であるが、羽咋市の子供たちの学力が非常に優れているのは、ソフト面においては授業活動が有効に働いていると考えられる。ハード面では、夏の暑さが昔より上がっており、授業活動を円滑に進めるためにエアコンの設置が必要である。全国的にも注目されていることから、是非市内全小中学校への普及を進めてもらいたい。また、トイレの洋式化についても昨年度と今年度で進めているが、残りの箇所についても計画があれば進めていただきたい。

(安達教育委員) 学校支援員について、支援が必要な生徒が増加傾向にある状況になっているので支援員の増員が必要である。図書事務員については、複数の学校を兼務している方が多い。授業への協力は十分できているが、兼務校における子どもに対応する時間をより確保するため事務員の補充が望ましい。財政的に補充が難しい場合は、勤務時間の延長などにより対応できないか。図書の貸し出しについてはシステムの導入により簡易的になった。図書館事務員は子ども達にとって図書の先生であるので、子どもとかかわる時間を増やすことで、子供たちの図書に関する興味を引き出していけるようにしていただきたい。

(山 辺 市 長) 教育委員のみなさま方から教育関連の説明があったが、いずれの項目についても重要な案件であると認識している。ただし、財政的な負担も発生することから、優先順位を決めて取り組んでいきたい。学校のハード面では、これまで防犯カメラやブロック塀などへ対応してきたが、現在は地球温暖化の影響もありエアコンが必要な状態となってきた。必要性は感じていますがすべてを一度に設置することは難しいので、庁内で十分な調整をしながら検討していく。教員の多忙化については、タイムレコーダーを設置して勤務実態を調査し、現状の把握に努めており、原因を究明して今後対応していくべきである。英語教育については、国際社会の中で必須であり、観光だけでなく、人口減少による人手不足解消に向けた外国人登用などの際にも対応していくため必要であると考えている。学校サポート体制については、教員の多忙化にもつながるが、財政的な考慮も踏まえて現状を把握しながら対応していきたい。

(今井教育委員) 教員の時間外労働については、現状把握が必要であるが、教員は時間外については定率で支給されているため意識付けが薄いと思われる。本当に必要な勤務であるのかきちんと認識して働き方改革に対応してもらいたい。

(山 辺 市 長) 教科の時間と、文化活動やスポーツ活動に関する時間をどのように見ていくか、また事務的な作業について教員がどのように関わっているかなどもポイントであるので、国や県などの方針などを見ながらアドバイスをいただければと思う。

(八 島 教 育 長) 昨年度までは実態把握について、中学校では教科と部活動に係る時間を分けて把握されていたが、今年度からまとめて把握されている。

(山 辺 市 長) 分けて把握できれば、現状把握もしやすくなるのではないか。

(今井教育委員) 取り組み内容を明確にした把握をしているのか。

(濱 名 事 務 局) 部活動、教材研究、校務分掌の3つに分けて報告されている。

<協議事項(4)について>

(八 島 教 育 長) いじめについて、各学校でアンケート調査を定期的実施し、情報の収集に努め、未然防止に役立てている。現時点で重大な案件についての報告はない。複式学級については、今年度より余喜小の2、3年生が複式学級を行っており、余喜小では今後も続いていく。平成35年度には西北台小の2、3年生で複式学級が発生し、2校で複式となる。学校統合については、保護者や地域住民の意見を十分に考慮しながら、今後のあり方について教育委員会の中でも慎重に検討しなければならない時期が来るかもしれないが、現時点ではまだそのような状態ではない。

(安達教育委員) 英語の教育について、英語が学校生活に取り込まれており、その成果を実感してもらうため、英語検定に取り組んでいる。市では英語検定に挑戦する際に年間で上位級にかかる受験費用の2分の1を助成しているが、年1回の助成だと挑戦する機会が少なくなり、年間3回の受験機会があるので助成回数を増やしてほしい。

(山辺市長) 英語検定については、できるだけ補助していきたいと考えているが、財政負担や他市の状況を踏まえながら総合的に検討していきたい。

(井上教育委員) いじめについて、隠れていた要素が表に出た場合、大変な問題になる危険性を含んでいるのが学校現場である。羽咋市においてそのような事例が少ないのは学校支援員の存在が大きいと思う。大人の目があるといじめも少なくなり、不登校も少なくなると思うので、現在も多くの支援員を配置しているが今後も継続してほしい。

(山辺市長) これについても、状況を見ながら前向きに検討していきたい。

6 次回会議開催について

次回の会議の開催については、今年度内に次年度予算の説明をさせていただくか来年度の適切な時期に開催することとした。

7 閉会

八島教育長あいさつ